



先見の明

三 瀬 隆 有限責任中間法人
日本エレクトロヒートセンター 理事

当社北陸電力株式会社の本社ビル前にはプロメテウスの銅像が炬火（かがりび）を掲げ立っています。プロメテウスは、ギリシア神話において人類に火を与えた神です。プロメテウスには「先見の明」という意味がありその能力を持っていたとされ、主神ゼウスが人類に禁じていた火の使用を「先見の明」を持って人間に持たせてもよいと判断したのです。

その後、人類は産業革命を経て、先進国を中心に大量のエネルギー（火）を消費することで豊かな生活を享受する一方、大量の二酸化炭素を地球上に放出し、現在では地球上の森林吸収量の2倍近くまで排出することとなりました。その影響は世界各地に地球温暖化による異常気象という災いとして降りかかってきています。

人類はプロメテウスの「先見の明」に応えるためにも、低炭素社会を実現しなければなりません。そのため、2008年から京都議定書の第一約束期間をスタートさせ、省CO₂活動を本格化させました。

今後、省CO₂社会の実現に向けて、今まで以上にエネルギー需給両面の技術的対策とソフト面の整備が必要になっています。二酸化炭素排出量取引の試行的実施に向けた国内統合市場が整備されつつあり、省CO₂に対する投資を積極的に促すこととなります。技術対策として、供給面では原子力をベースに太陽光や風力発電の一層の普及拡大に向けた取り組みが必要であり、需要面では従来からの省エネ活動に加えて、一層の高効率機器の開発と普及、設置した機器を最適に運用するチューニング技術が重要になっています。

さらに、電力需要面から少し詳しく見ると、従来の白熱灯や水銀灯からLEDやHIDといった高効率照明へ転換していくことが必要です。ヒートポンプはより高効率化が進んできており、100℃以下の温度領域の熱源機として燃焼機器の熱効率を上回っており、石油価格高騰の影響もあって電気ヒートポンプは追い風が吹いております。今後は、さらに高効率で安価な機器が市場投入されることを期待しています。一方、100℃～200℃の温度領域においては、蒸気利用が未だ主流であり、今後はこの温度領域においてヒートポンプ並みの高効率機器の開発、もしくは既存技術の応用によって熱効率向上を図ることで大きな転換につながる可能性を秘めていると思います。

先見の明をもって人類に与えられた火（エネルギー）の活用を、次世代につないでいくためにも、我々は現在最も効率のよい機器・使い方をお客さまに提案し、実現していくことに注力していかなければなりません。当センターの活動は、電気の高効率機器の普及促進と技術向上の中心的役割を担うものとしてますます期待しているところであり、今後も関係する方々のご協力とご指導を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

(さんせ たかし) 北陸電力(株) 支配人 営業本部 営業推進部長